

平成28年度 第3回名張市男女共同参画推進審議会 会議録（概要）

日時：平成28年11月30日（水）午後2時～4時

場所：名張市市民情報交流センター会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

（1）（仮称）第2次名張市男女共同参画基本計画（素案）について

①パブリックコメントの実施結果

②素案の修正、追加項目について

③素案掲載写真（案）について

（事務局説明）

（会長）

39ページの写真の説明書きには、各種相談の受付というのがありますが、例えばDV相談への対応は。

（事務局）

このセンターの相談は、女性のための相談、女性弁護士相談、男性のための相談、メンタルヘルス相談の4つの相談があり、DV相談は受けていませんが、関連する女性相談のところに、そういう方が来る可能性がないとまでは言い切れません。

（会長）

なかなか難しいですね。プライバシーと安全を図りながら相談業務をするというのは。

（事務局）

そうですね。センターはケアもしたいけれども、相談を受ける側との関係と配慮している部分もあると思いますので、その兼ね合いが。DVや子ども、家庭や児童の相談は、DVも全部、母子一体になることが多いので、それを全部別のところでしています。ですからこちらの方には、女性のための相談とか、女性弁護士相談というのを掲げていて、離婚相談が多いです。

（委員）

そういう一般的な相談だけをここで受けるのであれば、特に各種相談というので悪くないと思うんですけどね。

（会長）

全くなければね。

（事務局）

ただ、ご存じない方は実際にはDV相談という形でみえます。で、そこは連携を取っていますので、本当に危ないと思われる方は、すぐにもうそちらの方で相談員が来て適切な対応させてもらっています。

(会長)

名張市人権センターというのは。

(事務局)

これは、機能を指し示している言葉で、ここを本来は名張市市民情報交流センターという建物名称なんですが、そのセンターの中に人権センターと男女共同参画センターという機能を持っているということになります。

(委員)

この写真と施策の方向 2 2 と 2 3 の関連だけれども、ずっと読んでてどうかなと思ったんです。

(事務局)

例えば 4 3 ページの施策の方向 2 4 番のところには相談体制とありますが、女性弁護士相談の実施というのはまさに言われる通りです。でも、DV防止の写真を載せましたので、こちらに載せていることはあります。全体的にまとめた時に見やすいもの、わかりやすいものをというのを目的として、写真も今回付け加えようということで、その場面に合うものを選んできたんですけれども、人権尊重の意識づくりとか、メディアなどにおける人権尊重という施策の方向性を示す内容にぴったりのものがないので、どちらかというと、この建物をシンボルタワーのように考えまして、そういう意味合いでこの写真を載せさせてもらっています。

(会長)

写真説明は変えられますか。

(事務局)

変えられます。

(会長)

名張市男女共同参画センターと名張市人権センターが入っていますくらいでどうですか。みなさん Navarie がこことわかってますよね。一般の人がそういうものだと。

(委員)

市民情報交流センターってどこにあるっていう人がいます。

(事務局)

まだまだですよ。

(委員)

そこでは何してくれてるんやっていうようなことは聞かれることはあります。

(会長)

そしたらやっぱり、Navarie のほうがよくわかる。いろいろ出ましたけれど、よろしいか。Navarie のこれを残して、男女共同参画センターと人権センターが入っていますと。

(委員)

資料 9 の（ジェンダーギャップ指数の）101位の古い数字のままなので、今から出すんだっ

(委員)

ベルフラワーのイメージがあまりにも定着しているから、それ以外に思い浮かばないんです。

(事務局)

名張市の総合計画も、理想郷プランという名前ですけど、今策定されているのが、新をつけて、新・理想郷プランです。ですから前の名前を踏襲しても問題はないと思われます。

(委員)

ベルフラワーっていうのはすごくいいなっていうふうに思ってるんですけどね。

(委員)

新なのかツーなのか。わかりませんが。年代をこう入れるのか。

(事務局)

新ベルフラワー、新でいきますか。

(会長)

正式な名前としては名張市男女共同参画基本計画、こうでもいいんですか。

(事務局)

男女共同参画基本計画です。そこに第2次がつきます。

(委員)

仮称をとってその最後にベルフラワープランってつけるんですよ。

(事務局)

あまりにも硬すぎて、いかにも行政の基本計画だから、愛称つけていただくという発想です。だから正式名称はあくまでもそれなんですけれども、ベルフラワープランという通称でした方が市民の皆さんに親しんでいただける。

(事務局)

ではもうベルフラワープランということで。で、何年から何年という期間を示すということで。

(委員)

パートツーとかつけたほうが21世紀にかかったね、次に継承してるっていうサインが欲しい。私はこのままよりも何かついた方がいいように思うんですけどね。

(会長)

ツー、ギリシャ文字の2か。

(委員)

何がいいか、ここは桔梗ベルフラワーの絵にしてみらうとか、

(委員)

事務局が持ってるそれがそうなんですネ。

(事務局)

これは女性行動計画ベルフラワープランで2005年までですね。そのあとを受けてこの男女共同基本計画になってきています。

(委員)

硬いからなるべくベルフラワーパートツーとか新ベルフラワーなんか入れたほうが。

(委員)

第2次名張市男女共同参画基本計画っていう大きな見出しがつくのであれば、ベルフラワープランツーかなんかそんな感じにしといたほうがいいのかと。

(事務局)

先ほどベルフラワーと言っていたいて、これ女性行動計画でしたので、基本計画そのものとしては第2次なんですヨネ。でもベルフラワーはこれなんですヨネ。そのもう一つ前で基本計画ではなくて行動計画だから、今おっしゃっていただいたベルフラワープランってつけていただいても別に支障はないかと。

(会長)

支障はない。間隔は空いてるけれども、まあベルフラワーツーでいきますか。

(事務局)

第2次名張市男女共同参画基本計画ベルフラワーツーということでよろしいですか。プランなしでベルフラワーツーですね。

(2) 平成27年度実施計画の実施状況について

(事務局説明)

(会長)

事業の方向っていうのがありますヨネ。1と2はどこに書いてある。

(事務局)

例えば10ページの基本目標1の1番最初のところですね。男女共同参画での視点での評価の下に事業の方向というのがあります。漢字で「継続」と書いてあるところです。一般的には、1が継続ですけども、場合によっては内容の見直しとか、事業の統廃合とかそういうことがあった場合は、そういうところで次年度以降の方向性を示すということになっています。

(会長)

縮小とか拡大とかそういうのは。

(事務局)

縮小とか拡大はほとんど現状ではないですね。例えば35ページの具体的施策93番は完了・終了となっていますが、これは計画自体が完了したのでそれに伴ってこの事業自体が終了した

ということです。それから前のページの具体的施策８９番、小中学校の開放、これも事業の方向は内容の見直しとなっています。今お願いしていますのは、２７年度の実施計画の実施状況についての報告をさせていただいておりまして、今会長がおっしゃっていただいたのは実はそのことも含めてなんですが、この評価方法がわかりづらいということで、次年度からは、違う評価方法を持ちたいということで資料７として出させていただいているところなんです。ですから、２７年度までの実施評価については、現行通りのやり方で事業の方向性の部分であったり事業成果のところは、そのままの評価の形をとったものを２７年度の進捗状況としては報告をさせていただいているところです。で、先ほど事務局が説明をさせていただいた大まかな施策の方向性について、この５角形の形で表現をしていくと、おおむねある程度達成しているとかそういうふうな評価がいったんは出てきていますということの報告です。

(会長)

これは次回、次の評価

(事務局)

そうです。次年度以降はこのスケールを当てたいということです。

(委員)

市の職員の研修をこれからどのように回数を増やしていくのかということを資料を見てたんですけども、ぱっと見ただけで３年間では５００人だから、まあまあいい数字かなと思ったりして、残り見たら単年度４０となっていて、この数字がどうなっのかと思ったんです。

(事務局)

そうですね。

(委員)

市の職員の研修の数が増えるということは市の取組の意気込みを表してるんじゃないかと思うんです。だからずっと毎年同じような数やったから、増えいく方向のほうが意気込みが感じられるなと思って。

(事務局)

３年間で５００という目標は書かれてますけれども、実際には計画とは程遠い数字になってるんです。例えば、平成２７年度の数字は、単年度の実数です。だから３年間で５００という数字でいけば、これをのべで表すのが正しいんですけども、今までこういう形で進めてきたと、それでも全然かけ離れた数字ですので、この数値目標自体が達成できていないことを表していることになります。

(委員)

結局２０１５年は実質２７人。

(事務局)

そうです。職員の単年度参加数です。

(会長)

１０ページが一番上の数値目標がありますよね、２７年度実績で２８年度目標ということで、

うまくできてるものもあれば駄目だったのもあって、これも男女共同参画研修に参加した職員数は年に27人で、28年度は40人にしたんやね。

(事務局)

はい。

(会長)

そうですね。そういうように見ていくと、もっと他に数値目標のところ、例えば19ページが一番上ですよ、審議会等への女性の登用率が実質29.1%。来年度、まあ今年にかけて45%までもっていくと。

(事務局)

これも数値はそこまでいってまして、これは総合計画も同じ数字を上げているんですけれども、年々上がっている傾向にあるんですけれども、45%には届かないという数字です。

(会長)

それともう一つ、女性のいない審議会等の解消ということで、27年度について16でしょ。まだ。これをゼロにするってそれは無理。

(事務局)

現行計画を作った時に目標を設定したんですけれども、9年経って、全然進んでいないということです。

(委員)

例えば、きちっとした研修だけではなくて何かの研修の折りに、3時間もし研修があつて、その内の3分の1はやるとかね、例えば職員の方が昇格された時には必ず受ける研修があるとするならば、そのうちの3分の1とかは必ずしてもらとかね、そういうものでもやったらぼんと数字出るんじゃないですか。それでそういうものがなかったら市民から見たらね、一生懸命これ作ってるけれど、市自身が意気込みというのがね、なんか作っただけというような感じに陥らへんかなという気がするんですけど。何かやったほうがいいような気がする。市の職員の人にも研修は必要やけども市民が選んでいる市長と議員の人たちも、議員になった時には必ず1時間はこういう研修をやらなあかんと思うんですよ。だから、そういう場をきちっとやっていくということ、この第2次プランができた時にね、今後はこういうことで、ていうことにしたらどうかというような気がしますけど。

(会長)

38ページの数値目標のところ、一番下、市職員のDV・セクハラ研修を受けた職員が3.3%でしょ。そういう数字で出てきた。それが70%になってるから。

(事務局)

市の職員に対する全体の数だと思います。

(委員)

もうひとつ、例えば10ページの一番下の講座等学習機会の提供回数が27年度は16回なんですよ。それで28年度は80回となっている。どういう中身でどういう人を対象に考えて

80回になっているのかなって疑問に思ったんですけど。

(事務局)

2007年から2015年までの計画というのを立てて、それから前期、中期、後期に分けてその節目の時にその前の3年間の結果を踏まえて次の3年間どうするかっていう数値目標を定めた時に、毎年報告させてもらっていたのは、進捗状況として報告をさせてもらってるんですけども、この目標設定そのものは、3年前にいったんここまでしましょうっていうものを引っ張ってきてるんです。本来、この計画というのは、平成27年で終了し、平成27年中に平成28年をスタートとする向こう10年間の計画を立てるのが本来だったんですけども、今、市の総合計画を立て、見直しを行う段階で、上位計画を見直すからこの分野別計画となるこの基本計画についても、1年間先送りしましょう、ということで、今年策定をしていただいているわけです。で、その中で、27年で本来は目標達成できたかどうかその時点で考え合わせて28年からいかなければならないところを、1年間のブランクがあるので、それでそのまま27年の目標値をそのまま引っ張って28年度に伸ばしている関係で、ですから実際にはこの目標数値を設定したのは、3年4年前ということなんです。だから数字の置き方としては、確かに現実とかい離れた結果になっているというところはそこにあります。それから、じゃあその3年間何してきたのという今ご指摘をいただいているとおりです。

(会長)

私たちもまあ一応それ聞いてはいたんですけど。

(委員)

こんなにひどいとは思ってなかった。

(事務局)

昨年と同じようなご意見をいただいた記憶もございます。

(会長)

そうやね。

(事務局)

ですので、次期計画では実際に則した目標をできるだけ立てるということ。

(会長)

そうしないとこの計画自身の信頼しなくなっちゃうから。

(事務局)

そうですね。

(委員)

ですから、どういう学習会が必要なのかっていうのを重点的に考えて、例えば市の職員さん向けやったら、今これが必要とか、それから地域づくりさんも協議会や地域で学習をしていただくんやったらこういうことから入るとかね。じゃあそれを何回ぐらい順番にやっていったらいいのかっていうのをおおよそ目星をつけて、その上での、例えばその地域づくり15もあったらそこへそれぞれ例えば2回とか3回とかやったらすごい数になるとか、考えたんだけど

も、やっぱりこの８０回っていうこの回数っていうのが誰を対象に考えたのか聞かないとわからないなあと思ったもので。

(事務局)

おっしゃる通りです。

(委員)

この８０回は何年前からか作った数字が残っているということでしょう。

(事務局)

そうですね。

(委員)

実績をずっと比べていったら２７年度は１６回しかなかったから、どうしてもあいてしまうっていうことですね。

(委員)

男女共同参画施策推進委員さん、ここもやはり講座を持てる人なので、活用してもらって、聞いてもらっててというようなことをすれば。

(会長)

これだと家庭、農業従事者の家族経営協定締結数これだけですね。

(事務局)

計画を上回ってますね。その他のところは、何とか目標数値に近いのか、かけ離れているか。

(会長)

待機児童は増えてるのかな。

(事務局)

待機児童も増えてますけれど、ファミリー・サポート・センターの利用者はかなり増えているということですね。

(会長)

DVの認知度は一応増えてると、目標よりね。

(委員)

これ認知度ってどうやって調べていったんです。

(事務局)

これはアンケート調査ですので、毎年ではなく、計画策定の前に定期的に行うということで、それが平成２６年度にさせていただいたということです。

(会長)

委員会としても、きっちりとフォローできなかったという点は自己批判しますけれども、今度

の新しい計画から、数値目標の設定の仕方をもう少し市民の期待を裏切らないような具体的実行可能なものに極力仕上げてほしいというのを強くお願いして、数値目標も、どういう数値目標にしたらいのかというようなことについても、もう少しこう大胆に取捨選択をして、効果的な数値目標をお願いしたい。

(事務局)

新しい計画では、できるだけ達成可能なものにするとは思っていますが、実際問題として、かけ離れる可能性もあるかもわかりませんが、それは5年後の見直しの際に、もう一回再精査して修正するように考えています。

(委員)

もう一つは、今のように目標を立てたらその目標を実現すべくいろんな回数を積み立てていくということを思いますし、それから例えば意識の問題ですけど、意識が全然変わってないですね。これはもう日本全国でも本当にいわば停滞気味になっているんですけども、それも例えば19ページの11番の32のところの課題のところですよ。19の市の審議会の委員の構成とかこういうところの要綱で、課題のところ男女比に留意しつつも、関係団体の代表者又は団体からの推薦により委員選任することが多い現状から、目標値（男女いずれかが40%を下回らない）を満たすことが困難な状況がある。ということはもう10年以上前からやっぱりその地区委員にしても団体の委員にしてもこれずっとあるんですけども、じゃあこれを具体的に推薦制度っていうのがあるから数値目標にいかないんだっていうようなことがね、もうわかっているわけですよ。で、それが、システムを変えなきゃしょうがないと思うんですけども、推薦にすれば私も経験ありますけれど、自治会で会長を選んだらいかなんですよ、そういうのを推薦じゃなくって、総合選出とかね、なんかこうシステムを変えていくっていう方法にしないと先ほどの目標と一緒に具体性を持たないと進まないんじゃないかなって感じるんです。つまり一番根幹の意識のところがやはり人間ですから変わりにくい。そのところは制度とシステムのやり方ですよ。そういうものでこう具体的に解決みたいなことが全体を見てたら同じことがずっと書かれているようなんです。

(事務局)

まだ事業は完了してないんですが、具体的に各担当室が、どれぐらいの達成状況かはまだ把握してないんですが、おそらく27年度とそんなに大きく変わらないというふうに考えてます。

(会長)

何かこう促進できるようなものはないんですかね。今からおしり叩いて。

(事務局)

来年度の審議会も、今年の報告もさせてもらおうとまた同じような話になる可能性もあると思いますけれども、29年度の計画の段階で、できるだけ実効性のある取組をするようには働きかけるようなことも必要かなと思います。

(委員)

市長に答申出すでしょ。セレモニーに市長が来るわけですよ。皆でちょっと一言言いましょうよ。市長、市の職員の研修に出すとかね。

(事務局)

市長との懇談ですでに言わせていただいているんですね。もっと研修の機会があれば増やして欲しいとか、それはお願いしています。

(委員)

そうなんですか。どんな感じで。

(事務局)

市長は前向きなんですね。ここに書いてある通りで、審議会委員さんは地域からも出られる方が多いとなるとね、どうしても推薦とかそれから団体から出していただくとなるとね、どうしても男性の方をとということもあるみたいです。

(会長)

一緒に行ってもらってもいいんですか。今度答申する時に。

(事務局)

会長が代表として市長に答申書をお渡しいただくというふうに考えています。

(会長)

今言ってるこの数値目標をしっかりとやってくださいよというようなことについてはね。

(委員)

もう会長の方からしっかり言うてもいいかも。

(事務局)

答申という一枚ものの文書を読ませていただきましたが、あの中で会長は総括的におっしゃっていただいて、この基本計画きちんと立てたからこれを実行していただきたいということを申し添えるための答申のセレモニーなんですよ。ですから、そこにまだまだいやもっと自分の思いをということであるならば同席していただいて一委員の意見ですけれどももっていうところで言ってもそれは全然構わないんですけれども。

(委員)

市の男性職員の育児休業取得率っていうパーセントが出てるんですけどね、分母は男性職員全部じゃないですね。

(事務局)

じゃないですね。

(委員)

それだったら、取得する権利はあるんだけど取得しない人がほとんどで、取得した人が15パーセントという意味なんですか。

(事務局)

その分子分母の出し方もわかりにくいので、次の計画では何人取得しましたということで変えています。

(委員)

増えてますね、今年で。15%増えている。

(事務局)

この26年の時に1.2%ですね。

(委員)

上が何人になったのかなって。

(事務局)

今まで1人です。

(事務局)

分母分子じゃなくて人数で出そうと思ってます。今現状1人ですと。それが何人を目標にしますっていうふうなことで。

(会長)

出産休暇、これも100%とっているの。

(事務局)

女性は100%。男性はとってないですね。

(会長)

出産休暇、例えば1週間ありますよね、男性が取れるのは。それを100%取ってるのかいうのもあるから、希望が持てるような数字が出てこないよね。

(委員)

市役所は、市内では一番大きな事業所ですから。

(3) 事業評価方法(案)について

(事務局説明)

(会長)

こういう評価をいただいて、事務局は事前評価の時も入るんですか。

(事務局)

事前の時もチェックします。

(会長)

チェックする。そういうことでいいと思います。

(事務局)

来年度の審議会では、28年度の事業結果とそれから29年度の事前評価をしていただく形になります。例年8月にしていますが、時期的には少し早い時期にその年度の事業計画の視点評価も含めて審議会で見いただくことになります。

(会長)

該当なしというのは、これどうにでもなると思うんですよ。ものによっては。例えばどこかからのパンフレットを配布しましたというのがあるでしょ。それでできましたということになっていたり、うちは男女共同参画は関係ありませんので、配布しましたというだけでAになったりするから、これをどう評価するかですね。考えて。

(事務局)

そうですね。できるだけそれがないようにはしたいです。どんな事業の中でも男女共同参画性があるということの意識付けをですね。

(委員)

12、13ページのあらゆる教育の機会における男女共同参画の理解というところで、13ページの例えば9の具体的施策の進路指導があって、キャリア教育の中でうんぬんとあって、年間3時間程度とか書いてあるんですよ。それで実施状況で、男女共同参画社会の実現を視点としたキャリア教育の実現ができましたと書いてあって、教育のほとんどのすごくパーフェクトに近い良い評価が出てるんですけども、例えばこういう教育現場で、このキャリアにいわゆるその参画の事業の中のマニュアル化とかですね、事業案みたいなものはできてるんですか。

(委員)

事業案、この3時間の中で参画のお勉強をどれだけのどのような形で入れるというねマニュアルが全市の学校に配布されているのか、あるいは学校にお任せされているかという質問なんですけれども。

(委員)

学校ですが、おそらく主に中学校であれば中学校単位で、小学校は小学校で、進路上で、また違った視点での短期評価を参画というかたちでやっていますが、必要とされるものとか、それもマニュアル化は変えてはありますね。

(委員)

じゃあ一貫性というか中学校は中学だったら全ての中学がこれだけの例えば30分を3時間の中で何分をどういう形で使うかという意志というかコンセンサスはあるんですか。

(委員)

わかってない感じがある。

(会長)

実践できましたと書いてあるから。

(委員)

そうなんです。各学校とか学校形態の中で、そこで決められているかどうかという先ず問題だし、それからこの参画のこの計画の中で、やっぱり教育の中でどのように入れていくかっていうね、ベーシックな案がやっぱりあってしかるべきじゃないかなと思うんですね。それでないと何年やっても、やってはいるけれども実際にどれほどの理解が子どもたちの中にできていってわからないし、大学生になっても全く知らないって、男女共同参画、「へー」っていうのがすごいんです。でも学校によっては、女性学とか講座を設けてやっているところもあるし、

そういうものも全然やっていないところもあるから、そういう学生が大人になって家族を持ち
つてとなると、やっぱりそのところが突然、「え、なんだ」っていう感じの男女共同参画なん
だっていう感じになりそうな、あるいは今までなってきたような気がいたします。調べたわけ
じゃないですが。なので、小さい時からの小学校は小学校なりにこういうことを重点的にみん
なでやろうとか、そういうものをなんか指標みたいなもの、いわゆるベンチマップっていうん
ですけれども、ここまでこういうことをやったら良いというような枠を作っていくみたいなの
が、今後していただくと段階的にずっと理解が高まってくるように思います。13ページの実
践ができました。で、じゃあ、必ず具体的なものがこう出て来てその具体的なものに対して評
価が出るっていうような形になってるので、そういうシステム、枠を作って、これからのこと
ですけれども、いくと少しずつでもやっぱり進むんじゃないかっていう感想を持ちましたので。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

また、よろしくお願いいたします。

(会長)

具体的に例えば日時なり、あのこういうふうだったらどういうタイプでやったのかとか、年3
時間と書いてあるから、いつごろやったのかってそういうように具体的なそういうベンチマー
ク、それで書いてもらうということですね。

(委員)

それまた集めても教えないとね。

(事務局)

そうですね。

(委員)

今実際にやってるから、各学校から集めてそれをこうまとめると名張市の中でどのようなこと
が行われているか、何時間で1分、何分行われているかっていうデータが出てくる。

(事務局)

そうですね。

(4) その他

今後のスケジュール、男女共同参画推進フォーラムの案内

4. 閉会